岡野新会長就任挨拶

日野前会長からのバトンを受け、今期より会長に就任いたしました。諸先輩方が築いてきた歴史ある協会の会長ということで、その責任を日々感じています。私自身は協会の事務局を約 10 年務めてきました。これまでは協会を支える立場でしたが、これからは協会を引っ張る立場となります。事務局での経験も活かして、協会活動の活性化を図り、MSW を取り巻く環境への取り組みも行っていきたいと考えています。協会活動が会員の皆さんに「見える」「伝わる」、そして皆さんを「巻き込む」ことができるよう努めていきます。力不足で皆さんにご迷惑をかけることもあるかと思いますが、その際はぜひポジティブフィードバックをいただければ幸いです。理事会はじめ会員の皆さんの力もお借りしてよりよい協会にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

日野前会長インタビュー

日野前会長は 12 年という長きに渡り会長を務められました。
就任の経緯と当時の協会についてお伺いしました。

～就任までの経緯～

2012 年度から会長を務めさせていただきました。正司前会長はとても偉大な方で、誰もが「自分には務まらない」と後任選びが難航しました。時期会長を決めるために、裏理事会として集まったこともありました。当時は 40－50 代の理事がおらず、同世代が多かったのですが、それぞれ家庭の事情や仕事との両立ってところで難しかったようです。自分にはまだ早いと思うこともありましたが、7-8 年理事をしていて協会の運営はわかっていたので、経験としてやってみようと引き受けさせていただきました。就任当時は33歳でプレッシャーは大きかったですが、信頼できるメンバーに支えられ、やってよかったと思います。他県の会長にいろいろ教えてもらいながら、外部との交流が視野を広げる機会にもなりました。

～組織体制の変化～

就任当時と協会運営の体制としては大きく変わっていません。初任者研修の復活を提案したり、調査研究班の見直しをしたりしました。県内ではソーシャルワーカーデーを全国的にやっていこうという流れから、社会福祉士会とPSW協会とMSW協会の 3 団体で連絡協議会ができました。

～大変だったこと～

一番大変だったのはコロナ禍です。研修や理事会活動もストップしてしまいました。このままではいけない、まずは研修から始めようと、ZOOM を使った研修を始めました。理事会をZOOMで行い、LINEグループで相談するなど、オンラインでの運営も定着していきました。そんな中、中国大会がありました。一年は延期しましたが何とかやってみようと試行錯誤し開催することができました。

～災害について～

会長就任の前年に東日本大震災がありました。それ以後、日本協会も含めて災害について検討することが多くなりました。萩市で洪水があったときに、理事の有志でボランティア活動を計画したこともありましたが、悪天候で二次災害の危険性があり中止になってしまいました。今、日本各地でいろいろな災害が起きています。日本協会も力を入れており、他県の情報も入ってきます。今後当協会でも何かできればと期待しています。

～協会について～

ソーシャルワーカーの配置基準が緩やかだった時代から、退院調整加算や病院機能評価により、ソーシャルワーカーが増員され複数配置されるようになっていきました。しかし、ソーシャルワーカーとしての指示を仰ぐとしても、上司がソーシャルワーカーじゃない場合が多くあります。それが本当にソーシャルワーカーの仕事なのか、判断がつきづらい場合や困ったときに、協会に所属することによって横の繋がりができて、『やっぱり間違ってなかった』と再確認が取れます。最近は比較的自分たちの病院内で相談でき、良いことなのですが、自分たちのやり方だけになっていないといいなという思いがあります。本当はすごく外に出てきてほしいです。外を見ていただきながら、うちの病院ではこうやっていますっていうのができたらいいなと。あそこはたくさんワーカーさんいるのになかなか顔が見えてこないよねっていうのが、最近増えてきたかなと思います。

77 号特別企画　新旧三役対談

R7 年 6 月 21 日、山口市の菜香亭で新旧三役の対談を行いました。

田中さん：岡野さん会長になられて実感はありますか。
岡野さん：まだ実感はないですが、これからなのかなと思っています。次年度の中国大会の準備が始まれば実感がわいてくるのかなと思っています。社会に対して形にしていかないといけないのかなと思っています。

～中国大会について～

日野さん：2015 年はオレンジの T シャツを作って、プログラムは悪くなかったのに参加者が伸び悩んだ。良い大会で参加して楽しかったのに、悔しい思いが残っています。その次は、まさかのコロナで一回延期になって。オンラインで開催ってどうするというところから始まった。「家族」というみんなが興味を持っている内容と、オンラインの強みで比較的参加者は多かったし、初めてオンラインで開催したっていうところも含めて褒めてもらえることが多かった。
岡野さん：コロナの真っ只中で、今はハイブリットで講師の先生がでリアルタイムで講義することが普通になっているけど、前回開催時は先生がコロナになって当日来られなかったらいけないからと、事前に録画したものを流しましたね。次の開催県の島根県の事務局長さんからどんな感じでやりましたか？って問い合わせが来たりしましたね。
日野さん：何が正解かわからない手探りの状態だったね。
岡野さん：業者に依頼するって話も出たけど、どのくらい参加があるかもわからなくて、あんまり思い切ってお金を使えなかったところもあり、自分たちで頑張りましたね。
日野さん：心配だったけど、比較的多くの人に参加してもらえた。理事をしていると研修の講義を聴くだけではなく、打ち合わせとか直前のやり取りで講師の先生から良い話を聞けたりするよね。
吉田さん：それが役得ですね。
田中さん：繋がりが持てたりしますしね。

～事務局について～

岡野さん：事務局は 2012 年からです。打診を受けて、理事長に相談して許可を得て受けました。事務局やって良かったことは、いろいろなところと関わるので知ってもらえるようになったこと。それにより自分のネットワークも広がりました。それは大きな財産になっています。郵送物を印刷して、封筒に入れる作業が大変だった。昔は事務局に理事が集まってしていたようだけど、そのための準備も必要になるから、職場のスタッフに手伝ってもらっていた。外注になってすごく楽になった。
高瀬さん：事務局って職場の理解がないと難しいですよね。
岡野さん：仕事中に電話もかかってきますからね。
高瀬さん：まだ 1 か月ですが、結構かかってきますね。

～会長について～

日野さん：振り返ってみたら、ソーシャルワーカーデーとか三団体で何かやりましょうってなったのも、就任してからだし、子ども家庭福祉に関する資格についても要望書を出すのに三団体で相談して、山口県ソーシャルワーカー協議会ができた。これは自分から三団体に声をかけてできたから、動いていって形になったのは嬉しかったし楽しかった。

～副会長について～

田中さん：理事は 7 年間、副会長は 4 年間やらせてもらいました。初めは先輩理事と一緒に研修担当だったんですが、その方が退任された次の理事会で、『研修リーダーの田中さん』って会長に呼ばれて、あ、リーダーなんだと。それと同じような流れで副会長にもなった感じがします。コロナがあったので、オンライン活動の時期が半分といった感じですね。すごく良い経験をさせてもらいました。何かを積極的にゼロから始めることは苦手でしたが、動き出さないと何も始まらないので、とりあえずやってみようと。理事に就任する前は、あまり協会について考えることはありませんでした。でも、理事になってみて、気づかされることが多く、実際活動する中で得るものも大きかった。

～三役会について～
岡野さん：他県で理事会前に必ず三役会をやっていると聞いて、うちもそうしようかという話があった。
田中さん：僕が入ってすぐに LINE のグループができた感じですかね。
日野さん：LINE のアイコンがビールになっているけど、三人で飲みに行ったことはないね。

～理事の担い手について～
日野さん：理事の担い手についても考えていかないとね。
岡野さん：理事の担い手もですが、まずは会員を増やさないと。研修参加者が増えることが。
高瀬さん：なんで増えないと思います？
岡野さん：協会に参加していなくても成り立つっていうところが要因としてあるのかなと。
吉田さん：仕事をするうえで困ってなくて、休みの日にわざわざというところもある。研修に出て評価につながるわけでもなければね・・というところもある。
高瀬さん：ただ勉強したいだけであれば、法人内での勉強会が充実しているところもある。
岡野さん：ソーシャルワーカーの知り合いが増えたからと言って実務に結びつくかということもある。

～医療ソーシャルワーカーのこれから～
（日野前会長・田中前副会長・岡野会長・吉田副会長・高瀬事務局）
吉田さん：協会の意義ってなんだろうと。研修であれば日本協会に参加っていうこともあるのかもしれないし。違うアプローチをしていった方が良いのかと考えることもある。
岡野さん：理想を言えば県内の医療ソーシャルワーカー全員に入ってもらって、研修にも多くの会員に来てもらいたい。県内の社会的問題に対してもソーシャルアクションをしたり、人が増えれば力もついていくので。
吉田さん：日野さんがコロナがあったりというすごい時代を繋いでくれて、ここからアクティブにしていくのが課題なのかなと。
高瀬さん：会員もこの 1 年で 10 人くらい減っていますからね。これから調査もするので、意見をくみ取って会員を増やせていけたらよいですね。
岡野さん：今、医療ソーシャルワーカーが現場で苦労していることって何だろうって、そこに協会が関与できることがあると良いなと思いますね。身寄りの問題や医療ソーシャルワーカーのなり手の問題とか。中長期計画を具体的に作っていけると、理事もそれに向けて動いていけるのかな。
吉田さん：課題はいっぱいありますね。災害のこととかも、実際なにをしたら良いか捉えきれていないです。
高瀬さん：あまり大きく考えず、まずは来てもらうことから。話せる関係になる、何がしたいか話し合う、そこから次の活動へといった感じかなと。これからを担う若い人たちをいかに巻き込めるか。若い人に役割を持ってもらう、それを僕たちがバックアップしていく。一緒にやって良かったと思えるようになると、最初の繋がりができて良かったに戻っていくのかなと思いますね。
吉田さん：職能団体として考えると、会に所属して良かったと思える取り組みはなんだろうと思っている。子育てしながらワーカーしていますとか、いろいろなライフステージがある中、職場で相談できないようなことを相談できるような会であるのも良いかなと思っています。
岡野さん：これまでは一人職場で、協会でつながるというのが求められてきたが、今は複数職場でそこで完結できるようになってきたフェーズで、協会が何を提供するかというのは変わってくる。これからやりたいことは、会員に理事がやっていることが伝わる、見えること。アクセスしやすいツールを取り入れて、情報を早く伝えていきたい。研修報告も載せているけど、講師の先生に会員にメッセージをもらったりして発信する。各ブロックで行政や他団体と活動しているが、他市での取り組みを共有できるようにしていきたい。

～社会的課題に対する取り組み～
岡野さん：身寄りのない患者さんなど下関市では受け入れる病院が大体決まっている。当院も力を入れていますが、そういった患者さんが増えれば、医療ソーシャルワーカーの負担が大きくなる。もっと広くどこの病院でも受け入れができる体制が作れたらよいと考えています。どこの病院も困っていて、社会的にも大きな問題をシリーズ化して取り組んでいけたらいいなと考えています。
吉田さん：身寄りのないことを理由に拒否しないようにと言われているが、実際には難しい。4 人に 1 人が身寄りがいなくなる時代になっていく。山口県は社会的な課題で断らないという取り組みがあっても良いと思いますね。

～医療ソーシャルワーカーのキャリアモデル～

田中さん：医療ソーシャルワーカーが病院に配置されるようになってそんなに長くないので、医師や看護師に比べてキャリアモデルが確立されていません。役職がない場合も多く、定年までソーシャルワーク技術を使いながら現場で働くのか、事務部門に異動するのか。所属機関によっても違うのかもしれませんが、みなさんがどう考えられているのか聞いてみたいです。

岡野さん：自身はいずれ地域連携からは外れていくのではないかと感じています。事務部門や管理部門に異動したとしても、医療ソーシャルワーカーの視点をもって組織や地域に貢献できる。他部署に入る方が全体を変えていけるチャンスが多いかもしれない。それが患者さんや地域の人のためになってくと考えています。現場から離れたから医療ソーシャルワーカーでなくなるのではなく、現場での経験を活かし、医療ソーシャルワーカーの視点をもって組織や地域にアプローチしていくことも医療ソーシャルワーカーの重要な役割の一つではないかと考えています。

吉田さん：収益を度外視する仕事でもあるので、認められるには力をつけていくしかない。

日野さん：地域のことを知っていることを経営に生かしていければよいのかなと思っている。患者さんが一番困るのは病院がなくなることなので、地域の実情や患者さんの声を病院に伝える役割になっていくのかな。部署や肩書がどうなるのかはわからないが、ソーシャルワークの幅が対患者さんから地域や組織へと広がったと思いたい。

吉田さん：ソーシャルワークって対人援助だけではなく、いろんな形がある。

日野さん：医療ソーシャルワーカーが増えたのは退院支援加算がきっかけで、個別ケースの評価だったものが、最近はそれを踏まえて地域包括ケアという考えが出てきて『地域に向けて』『地域と・・』と言われることが多くなった。改めて医療ソーシャルワーカーってそこが得意分野だったよねと自分たちが自覚して改めて学び直さないといけないのかもしれない。ケアマネや施設と調整してっていう個別ケースよりも、その患者さんが地域でどう過ごしていけるかというのを考えていかないといけない。日本協会も地域活動をしなさいと発信している。加算に反映されるものではなくても、自分たちの専門性を発揮していかなければいけない。

～最後に～

日野さん：33 歳で会長になって維持することに注力してしまっていたが、新しい時代を作る土台作りができたのかなと思っています。みなさんが今日生き生きとこれからのことを話されていて、良いときにバトンタッチできたのかなと思っています。

田中さん：自分が理事に就任する前、協会について考えることはほとんどなかった。理事になって気づかされることがあった。こういう時代なので強制力を持ってというのは難しいですが、ある程度巻き込んでいければ、巻き込まれた人も得られるものや見えるものがあると思う。そういう取り組みを考えてもらえれば協会も良い方向に進んで行くのかなと思う。

編集後記

今回の対談は、みなさんにもその場で聞いていただきたいくらい、新旧三役の協会やMSWに対する思いであふれていました。紙面が限られているため、抜粋して載せていますが今後ホームページへ掲載予定です。皆さんぜひ、ホームページも御覧になってください。そして、少しでも理事活動に興味を持たれた方がおられましたら、理事の誰かにご連絡ください。